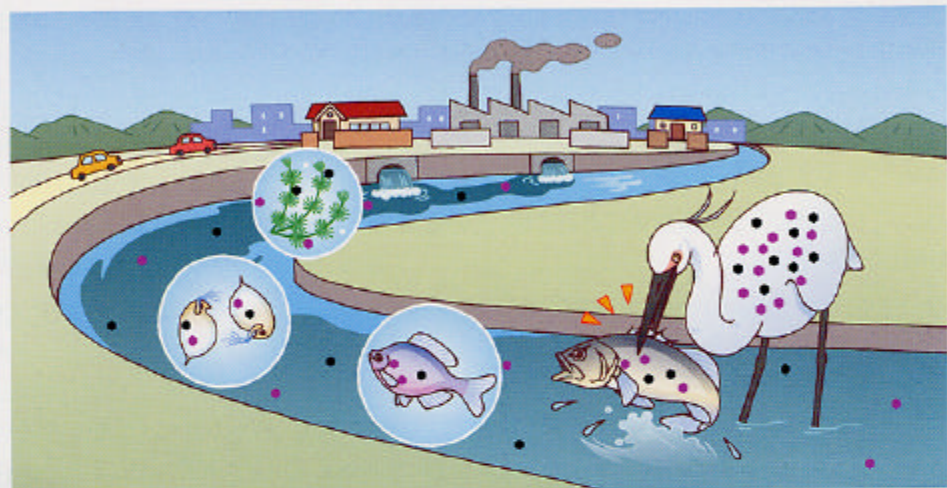


## 化学物質の生態系への影響

環境中に排出された化学物質は、私たちが気づかぬうちに広い範囲にわたって生態系に影響を与えている可能性があります。化学物質が生態系に影響を及ぼした、あるいはその可能性がある事例として次のようなものがあります。



### PCB、DDTなど

トランスなどの電気絶縁材などに幅広く使われたPCBや殺虫剤として使われてきたDDTは、環境中で分解されにくく生物の体内に蓄積されやすい物質で、強い慢性毒性を示します。人の健康への影響が注目されがちですが、工業地帯などから遠く離れた北極圏に生息するホッキョクグマやアザラシ類の体内に蓄積されていたり、鳥類への影響が報告されるなど、地球規模での野生生物への影響が心配されています。

### 有機スズ化合物

船底に貝がついたり、漁網に藻がつくのを防ぐための薬剤として、トリブチルスズオキシド(TBTO)などさまざまな有機スズ化合物が広く用いられていました。この有機スズ化合物によって、世界各地で貝類の減少が報告されているほか、日本やインドネシア、マレーシアの沿岸部に生息する巻貝がオス化しているとの報告があります。

### ノニルフェノール

ノニルフェノールは、洗剤などの界面活性剤の原料やゴムの添加剤などに広く使われており、界面活性剤が環境中に排出され分解されて生成する場合があります。環境省が2001年8月に公表した報告書では、日本でみられる濃度レベルで魚類への内分泌かく乱(いわゆる環境ホルモン)作用を及ぼす可能性があるとして評価されました。また、その他にも水生生物への有害性が強く、プランクトンなどに影響を与える可能性のある濃度で検出される水域もあることがわかりました。